

◆ 「良心的」な教師

僕が勤務している高校は、いわゆる「進学校」というやつで、生徒さんたちは、おおむね真面目でおとなしくしてくれているので、授業が成立しない（勘繰り）という困難な状況にはない。

こういう学校では、

「生徒を一流大学（韓では、名門大学を対比が強い）へ入れてやるのが、我々の使命であり、それこそが生徒や父母、ひいては地域社会(?)の期待に応えるということなのだ。」

なんていう大義名分のもとに「良心的」教師によって強力に受験指導が進められているのが普通だ。

カッコつきで「良心的」と書いたけど、僕のまわりには（嫌の淵があるが・・・）個人的にはホントに、掛け値なしで良心的な教師が多い。

「善意の人が最も残酷な行為を行う」なんて言葉があったと思うが、まさにそうで、「善意」とか「正義」とかって言葉にはよほど気をつけなくちゃダメだと僕は思っている。

過去のどんな戦争だって例外なく「正義」の名の下に行われたわけだしね。

実際、「善意の指導」を受けている僕の学校の生徒を見てると、「学び」からの疎外状況が著しいと感じる。

勉強が大学入試合格のための手段と化している、なんていうと、ちょっと手垢のついた言い方でハズカシイが、ともかく勉強そのものを楽しんでいる子なんてのは皆無に近い。

「勉強なんてもともと楽しいものではないのだ。」なんて開き直っているセンセイ

もいるけど、そんなヒトに勉強を教えてもらう生徒さんは不幸だよなー。

◆ 「芸人」になりたい

ちょっと前に酒の席で、ある数学のセンセイにからまれたことがある。

「あんたね、カッコいいこと言ってるけど、大学落っこちたら何にもならんぞー。無責任じゃないか。」

「僕はそういうことに責任感じてないんですけどね。」

「よその学校へ行った方がいいんじゃないの？ そういう人は。」

（そうかもしれんなー、と思いつつも）

「でもね、センセイも教員になって、高校で数学を教えるわけだから、数学はこんなにも面白いのだ、なんてことを生徒に教えたいわけでしょ？ そういう夢みたいなものはあるんでしょ？」

「そんなものないよ。因数分解のどこに夢があるんだ？ え？ 学問ってのは大学でするもんなんだよ。」

「……………」

こんなニヒリストにはなりたくないなー。

僕は、教師っていうのは、芸人の一種なのではないかと思っている（韓の舞を扱っている）。ミヨーな使命感など、さらりと捨てて、教室で舞い踊りたいのだ。

「物理ってホントに面白いよ、ほら、不思議だねー。なんでこんなことが起こるんだろうねー？」なんてね。

このノリが生徒にも伝染したら、こりゃ学校は楽しくなるよね。学問は文化だもの、楽しくなくちゃ文化じゃない。

そういう目で岐阜物理サークルを眺めると、これはもう、ほとんど芸人一座

だ。「のらねこ学会」なんていう、のほりはまさにそれを象徴してる。メンバーのそれぞれが、それぞれの芸風を持っていて、みんないきいき舞い踊る。

◆ 世代論など・・・

余談だけれど、1958年生まれの僕は、全共闘世代に対して、複雑な感情を持っている。

憧れ(俺もあと10年早く生まれてればー)と、恨み(あんたが勝手に蹴ってくれたおかげで大学はカラッポだったぜ)とが複雑に絡み合った、まさにコンプレックス。

だから、その時代を引きずってる組合の人なんかを見ると、僕らの世代はちょっと身構えちゃうのだ。

「ホントに信用していいのかなー？」なんて、ちょっとうさんくさく感じることもあるんだなー。(そんなことを言いつつ、俺も船員でありが)

そういう点から見ても、サークルのメ

ンバーは、まあ昔はいろいろあったんだろうけど、きっちり決着をつけて、次へ行ってるって感じがして好感が持てる。科教協の中でも、初めはちょっと異端(今でも?)で、組織論なんかについて、いろいろ言われたってのは、そういう世代内部の葛藤だったのではないだろうか、僕は邪推している。(訂正はごめん)

僕らの世代以降は、こういう点については初めから無頓着で(ねえ、もともと「闘争」の歴史を持っていないから)、身軽に舞い踊る素質を持っている。

「歌って踊れる教師をめざしてます。」なんてカルイことを言いだしたのは、僕たちの世代以降だ。舞い踊りの先に何を見ているかって点は重要だけどね。

くだらない駄文になってしまったけど、ともかく僕も新しい芸風を身につけたいものだと思う、今日このごろなのだ。(笑)